

目 次

はじめに	2
I 博物館概要	
○設置目的	3
○基本的性格と方針	3
○沿 革	4
○施設・設備	6
II 平成4年度 組織・運営	
○組 織	8
○事業計画	9
III 平成3年度のあゆみ	
○職 員	11
○日 誌 抄	11
○実施事業の概要	13
○刀剣・スタディーコーナー	
1 刀剣コーナー	14
2 スタディーコーナー	14
○特別展・記念展	
1 ふるさとの木の文化 —木地師の技と現代木工クラフト—	15
2 ふるさと哺乳動物	16
3 鹿児島—その自然と歴史—	17
○資料紹介展	
昆虫の世界	18
○特別陳列	
学校宝物展	19
○調査研究・資料収集活動	
自然部門	20
人文部門	22
○教育普及活動	23
○図書資料寄贈者芳名一覧	26
○利用状況	30
○博物館関係団体	31
IV 利用案内	32

はじめに

はやいもので平成3年度も終わりを告げ、気分も新たに新年度を迎えることになりました。この一年間、館員は持てるエネルギーのすべてを傾注して、一人でも多くの来館者の期待に応えるべく、連日懸命に努力いたしました。お陰で広く県民の皆様から高い評価を得た企画運営をすることができました。館員をはじめ関係いただいた方々に心より感謝の意を表します。

さて、去年は我が国において博物館法が制定されて40周年を迎える記念すべき年でありました。中央においては12月9日、天皇、皇后両陛下ご臨席のもと、霞ヶ関の国立教育会館で記念式典が関係者約800名参加のもと挙行されました。陛下のお言葉のなかに、博物館が国民の多様な要請に的確に対応しつつ、幅広い年齢層の利用者に親しまれる施設として発展することを期待すると述べられています。岐阜県博物館も高齢化社会への対応の観点から生涯教育施設として、また週休2日制を控えている学校教育の補完機関としての在り方についても早急に検討する必要があると思えます。

特別展等を中心とする昨年度の諸事業については、記載しているとおりであります。特に、置県120年記念事業として鹿児島県との姉妹県盟約20周年記念展「鹿児島—その自然と歴史—」は特筆できる展示でありました。今年度以降、県民の直接参加を目指して、ハイビジョンの導入等についても鋭意努力することになりました。

ここに、平成3年度一年間の活動の記録と平成4年度の事業計画の概要を内容とする館報第15号を発刊することになりました。開館17年目を迎える本館に寄せられる期待は大きいと思えます。飛躍を目指す当博物館に対して、ご高見を賜れば幸甚に存じます。

平成4年4月1日

岐阜県博物館長 篠田 幸男

I 博物館概要

〔設置目的〕

岐阜県の人文、自然両分野にわたる諸資料を公開し、併せて、教育普及活動を行うことにより、広く県民の学習の場となり、また文化財保護の精神の涵養^{かんよう}に役立て新しい教養と文化の発展に寄与することを目的とする。

〔基本的性格と方針〕

1. 基本的性格

岐阜県の人文(考古、歴史、民俗、美術工芸)・自然(動物、植物、地学)等に関する諸資料の収集、保管、展示、調査研究及びそれらの活用を図る総合博物館とする。

学校教育・社会教育との密接な連携を図り、利用者が楽しく学習することができ、未来への研究心と創造性を開発させるような生涯学習機関とする。

県内の博物館及び相当施設との連携をとり、資料の交換、提供を図り、本県の中央博物館としての役割を果たす内容と設備を有する施設とする。

資料の開発及び保存並びに活用について、専門的な調査研究を推進する。

2. 基本の方針

(1) 資料収集

県内の歴史・考古・民俗・美術工芸・自然等に関する資料を収集する。

資料は、実物を中心とするが、必要に応じて厳密な考証に基づく復元模型を含める。

寄贈、寄託、借用、購入等により収集する。

(2) 展示構成

展示は、常設展示と特別展示とする。

常設展示は、総合展示と課題展示とし、それぞれ人文、自然の2部門に分ける。総合展示は、だれにも親しめるよう平易な展示を心掛け、本県の歴史の発展の概要と、自然環境の概要を理解しやすく展示する。課題展示は、内容において、前者よりやや高度のものとする。

展示の方法は、「(ア)生涯学習の場として、幅広い層に親しめる展示。(イ)資料の単なる羅列ではなくストーリー性のある展示。(ウ)総花的展示を避け、各時代の特色やテーマの本質をとらえた展示。(エ)できる限り実物資料の展示をするが、更に、図表、模型等多種類の資料も活用。(オ)視聴覚機器などを取り入れ、見る人に強く訴える設備。(カ)明確で分かりやすい解説」とする。

展示室の主題と内容は次のとおりである。

○人文展示室1(人文総合展示)

主題「郷土のあゆみ」一原始時代から近代、現代に至るまでの歴史の流れと、各時代の特色を分かりやすく展示する。

○人文展示室2(人文課題展示)

主題「郷土の美術工芸」一特色ある郷土の美術工芸を部門別、時代別に展示する。

○自然展示室1(自然総合展示)

主題「郷土の自然とおいたち」一郷土の自然の概要を生態的に分かりやすく展示する。

○自然展示室2(自然課題展示)

主題「郷土のさまざまな自然」一特色ある自然物や事象をテーマ別に系統的に展示する。

○特別展示室(特別展示)

特定の企画とテーマを設けて年に数回展示する。

(3) 事業運営

資料は、本県の歴史的発展の立場から価値のあるもの、また県内の自然にかかわる価値のあるものを保全し、収集保存する。

常設展示は、県民の学習に役立たせるため、展示構成の充実を図る。特別展示は、テーマの設定に配慮し、内容の充実を図る。

調査研究は、資料に関する専門的、技術的な調査研究と、資料の展示、保存に関する研究を行う。

教育普及は、各種の催しものを通じて県民の理解と関心を深め、生涯学習の場づくりをする。併せて各種の啓発活動を推進する。

〔沿革〕

岐阜県博物館は、置県百年記念事業の1つとして、昭和51年5月5日、アカマツなどの自然林の生える里山の中に開館した。

県内各地の豊かな資料をもとに、常設展示を人文展示室1・2、自然展示室1・2に分け、郷土岐阜県を紹介した総合博物館である。

また、特別展を年に数回開催している。

博物館建設準備段階からの沿革は次のとおりである。

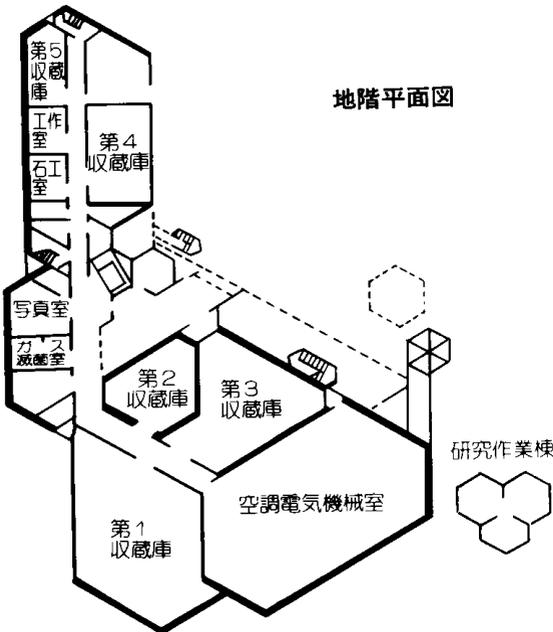
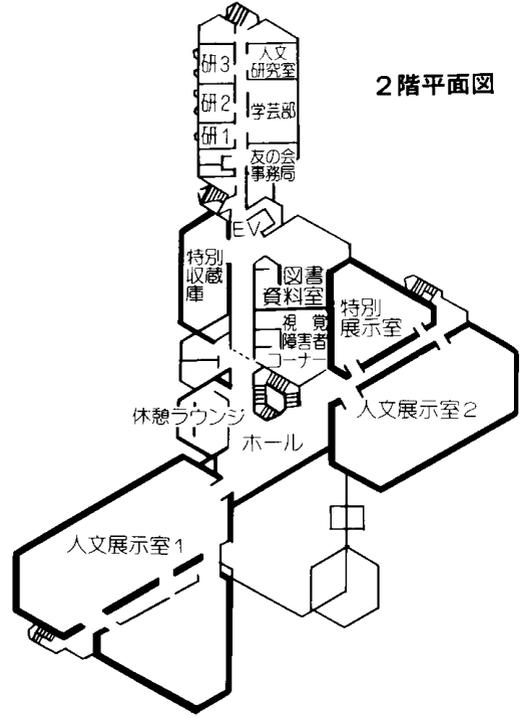
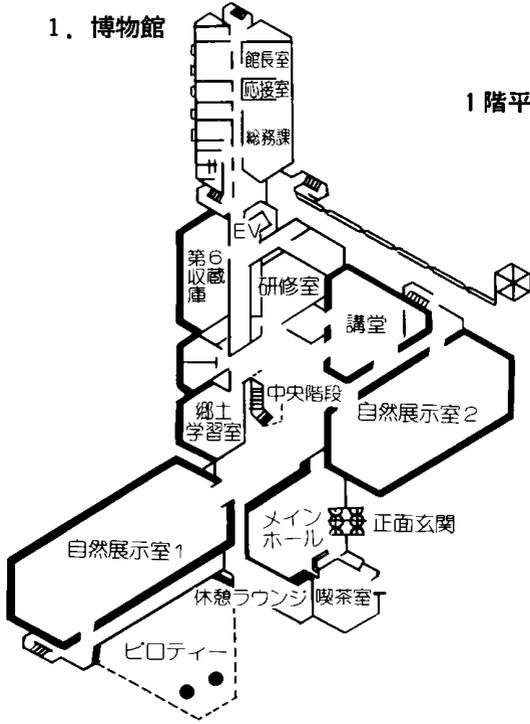
- 昭和46年3月 岐阜県百年記念事業推進委員会において、博物館の建設を決定
- 4月 教育委員会社会教育課に博物館準備担当を配置
- 6～9月 博物館懇談会を設ける
- 昭和47年4月 博物館開設準備室を設置
展示委員会を設ける
- 昭和48年8月 起工式挙行
- 昭和49年3月 展示実施計画樹立
- 10月 定礎式
- 昭和50年3月 展示工事着手
- 7月 本館建築竣工
- 昭和51年1月 展示工事完了
- 4月 岐阜県博物館条例公布
岐阜県博物館設置
展示資料等製作完了
- 5月 開館記念式典挙行 一般公開
巨匠三人展・スポーツ栄光展
- 7月 皇太子 同妃殿下行啓
- 8月 特別展「ふるさとの文楽」
入館者10万人を突破
- 10月 入館料徴収開始
- 11月 特別展「熊谷守一展」
- 昭和52年5月 特別展「日本伝統工芸秀作展」
入館者20万人突破
- 7月 特別展「郷土の化石展」
- 11月 特別展「鉄斎」
- 昭和53年4月 入館者30万人を突破
特別展「濃飛の甲冑」
- 7月 特別展「世界のコガネムシ」

- 10月 特別展「能面と装束」
- 昭和54年4月 入館者40万人突破
特別展「濃飛の先史時代」
- 7月 特別展「世界の貝」
- 10月 特別展「濃飛の文人」
- 11月 「視覚障害者(触察)コーナー」
開設
- 昭和55年4月 特別展「宝暦治水と薩摩藩」
- 5月 入館者50万人を突破
- 7月 特別展「化石の世界」
- 10月 特別展「蓑虫山人」
- 昭和56年4月 特別展「美濃の絵馬」
- 5月 入館者60万人を突破
- 7月 特別展「御岳山は生きている」
- 10月 特別展「ふるさとの美濃古陶」
- 昭和57年4月 特別展「高賀山の信仰」
入館者70万人突破
- 7月 特別展「ふるさとの植物」
- 10月 特別展「東洋の貨幣」
- 昭和58年4月 特別展「岐阜県の考古遺物」
- 5月 入館者80万人を突破
- 7月 特別展「長良川」
- 10月 特別展「郷土の生んだ先覚者」
- 昭和59年4月 特別展「濃飛の戦国武将」
- 7月 特別展「ふるさとの昆虫」
- 8月 入館者90万人を突破
- 10月 学習ビデオスタジオコーナー設置
特別展「濃飛の蘭学」
- 昭和60年4月 特別展「濃飛の縄文時代」
- 7月 特別展「鉱物の世界」
- 10月 特別展「美濃の刀剣」
入館者100万人を突破
- 12月 自然展示室2を改装
- 昭和61年4月 特別展「徳山の四季とくらし」
- 7月 特別展「奥飛騨の自然」
- 9月 人文展示室1を改装
- 10月 開館10周年記念式典を挙行
開館10周年記念展「ふるさとの祭り」

- | | | | |
|----------|--|---------|--|
| 昭和62年 4月 | 特別展「濃飛の弥生時代」
入館者110万人を突破 | 平成4年 3月 | 岐阜県博物館協議会より「新しい時代・県民ニーズに対応する博物館の在り方について」答申 |
| 7月 | 特別展「外国から侵入した生きものたち」 | | |
| 10月 | 特別展「飛驒の匠」
旧徳山村民家移築復元 | | |
| 昭和63年 1月 | 自然展示室1を改装 | | |
| 4月 | 特別展示室ショーケース改修
特別展「ふるさとの湿原」 | | |
| 7月 | 中部未来博88記念展「中山道—美濃十六宿」 | | |
| 10月 | 特別展「中生代の化石」
入館者120万人を突破 | | |
| 平成元年 4月 | 特別展「濃飛の古墳時代」 | | |
| 7月 | 特別展「ふるさとの野鳥」 | | |
| 8月 | 16日恐竜足跡化石白川村で発見 | | |
| 10月 | 特別展「移ろいゆく年中行事」 | | |
| 11月 | 日本生命財団より図書「岐阜県博物館総合案内」4,000冊の寄贈を受ける | | |
| 平成2年 4月 | 特別展「輪中と治水」 | | |
| 7月 | 特別展「白山の自然」
「恐竜足跡化石レプリカ」除幕式
グリーンアドベンチャー標識設置（自然観察のこみちに）
岐阜県博物館協議会に「新しい時代・県民ニーズに対応できる博物館の在り方について」諮問
入館者130万人を突破 | | |
| 10月 | 特別展「濃飛の仏像」 | | |
| 12月 | 岐阜県博物館協議会より中間答申 | | |
| 平成3年 3月 | 岐阜県博物館案内標識を設置 | | |
| 平成3年 4月 | 特別展「ふるさとの木の文化」 | | |
| 7月 | 特別展「ふるさとの哺乳動物」 | | |
| 10月 | 置県120年・岐阜鹿兒島姉妹県盟約20周年記念展「鹿兒島—その自然と歴史—」 | | |
| 11月 | 入館者140万人を突破 | | |

〔施設・設備〕

1. 博物館



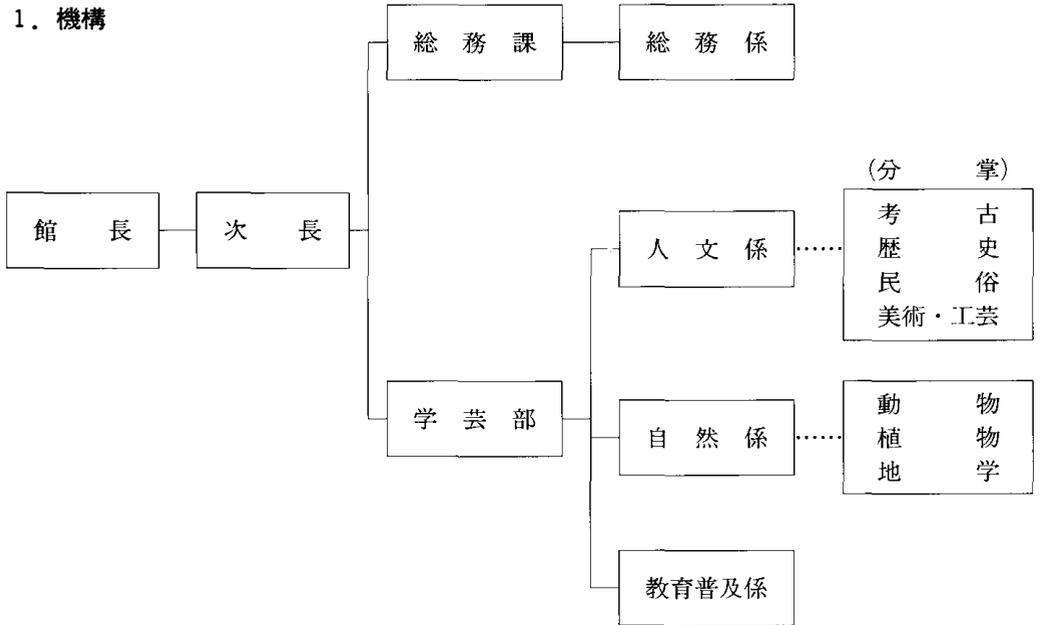
・主要室名及び面積

	室名	面積 (㎡)
1階	自然展示室1	583.8
	自然展示室2	478.8
	郷土学習室	95.4
	講堂	174.5
	研修室	93.2
	第6収蔵庫	142.8
2階	人文展示室1	942.2
	人文展示室2	478.8
	特別展示室	193.2
	図書資料室	232.0
	視覚障害者コーナー	58.4
	特別収蔵庫	142.8
地階	第1収蔵庫	314.1
	第2収蔵庫	126.0
	第3収蔵庫	192.0
	第4収蔵庫	99.4
	第5収蔵庫	55.0

II 平成4年度 組織・運営

〔組織〕

1. 機構



2. 職員

平成4年4月現在

職名	氏名	職名	氏名
館長	篠田幸男	〔学芸部〕	
次長兼総務課長 〔総務部〕	尾藤俊二	学芸部長	渡辺利昭
総務係長	武田正雄	課長補佐兼人文係長	野原亘 薫雄
主任	市原聡久	課長補佐	水野田 守治
主事	鈴木猛久	課長補佐	安田利 章
業務嘱託員	仁科純子	学芸主事	大塚光正 宏治
	酒井美奈	課長補佐兼自然係長	遠藤正俊 恬
	坂井真紀	課長補佐	中島常健 明
	長谷川陽子	学芸嘱託員	後藤田 健一 雄
	亀山綾子	課長補佐兼普及係長	小川平 敏高 司
	加藤京子	学芸主事	大平 高英 夫
	田代千津子	学芸嘱託員	今尾 克巳
	竹内寿子	学芸嘱託員	桑原 克巳

3. 博物館協議会

当協議会は、博物館の運営に関し、館長の諮問に応じ、または意見を述べる機関として、岐

阜県博物館条例（昭和51年）第2条の規定に基づいて設置され、委員は次のとおりである。

◎…会長 ○…会長代理

平成4年3月31日現在（五十音順）

氏名	住所	現職
青木秀英	本巢郡真正町下真桑1148-1	岐阜県公民館連合会会長
安藤惇	本巢郡糸貫町春近425	岐阜県小学校長会会長
岩田匡弘	岐阜市池田町2-17	岐阜県中学校長会会長
小瀬洋喜	岐阜市加納鉄砲町3-31	岐阜市立女子短期大学学長
熊田光久	関市山王通西7-10	岐阜県博物館友の会会長
小林峯夫	本巢郡穂積町牛牧1272-63	岐阜県高等学校長協会副会長
○坂倉又吉	羽島市竹鼻町2733	千代菊(株)取締役会長
篠田薫	岐阜市栗野西1-10	かぐや第三幼稚園副園長
◎土屋齐	大垣市荒尾町1077	(株)大垣共立銀行取締役会長
林恒之	岐阜市青柳町1-5	岐阜県私立中学高等学校協会会長
溝脇昭人	岐阜市鷺山186-1	岐阜新聞社(株)論説委員
和田吉弘	岐阜市長良白妙町1-5	岐阜大学教育学部生物地学科教授

〔事業計画〕

1. 展示活動

事業名	期間	主な展示内容
常設展		1階自然展示室は郷土の自然、2階人文展示室は郷土のあゆみと美術工芸について展示。刀剣コーナーは年4回展示替えを行う。
特別展 「飛驒のあけぼの—交流する縄文・古代人—」	4/21～6/14	近年著しい成果を上げている飛驒地方の発掘資料を展示し、縄文・古代の飛驒地方の他地域との交流の歴史を紹介する。
「恐竜—謎とロマン—」	7/14～9/6	岐阜県恐竜化石学術調査団の調査の成果を紹介するとともに、国内や外国の恐竜資料を展示して、恐竜の生態を紹介する。
「近世に輝く濃飛の群像」	10/20～11/23	江戸時代、美濃国や飛驒国で、政治・社会・文化の各方面で業績を残し、大きな貢献をした人々を展示紹介し、郷土の先人や地域文化に光を当てる。
資料紹介展 「食べらねる野草」	12/9～1/24	県内で普通に見られる野草の中で、食べられるものを展示紹介する。
特別陳列 「学校宝物展」	2/16～3/31	県内小・中学校で収集保管されている貴重な資料を展示紹介する。
スタディーコーナー		くらしの中の石（～4月）、岐阜県のトンボ（5・6月）、岐阜県の夏鳥（7・8月）、ふるさとの岩石…火成岩（9・10月）、岐阜県の貝（11・12月）、ふるさとの化石…古生代（3月～）

2. 教育普及事業

事業名	期日	対象	定員	内 容
特別展シンポジウム	5/17	一 般		飛驒からみた石器と土器の交流 高山考古学研究会 石原哲彌氏 吉朝則富氏
特別展講演会	5/31	”		高山市教委 田中 彰氏 国府町教委 岩花秀明氏 川合遺跡群（飛驒川・木曾川合流点）を掘って
”	8/2	”		日本考古学協会会員 吉田英敏氏 恐竜はなにをみたか 岐阜大学教授 梶田澄雄氏
”	8/16	”		恐竜一謎とロマン—
”	10/25	”		横浜国立大学教授 長谷川善和氏 近世濃飛の文化と人物 岐阜大学教授 松田之利氏
文化講演会	11/3	”		武将と美濃鍛冶 (友の会共催) 東京国立博物館刀剣室長 小笠原信夫氏
県博日曜講座	4/19	小学生以上一般		美しい貝
”	6/7	一 般		両面宿儺の時代
特別講座	7/18	小学生以上一般		恐竜の生きていたころ(対象：東濃・飛驒地区 会場：恵那総合庁舎・飛驒総合庁舎)
”	7/19	”		恐竜の生きていたころ (対象：東濃・飛驒以外の地区 会場：岐阜県博物館)
県博日曜講座	9/6	一 般		木曾三川の水運
”	11/15	”		大垣藩と岩村藩にみる文教政治
”	1/17	小学生以上一般		食べられる野草
自然観察会	4/29	小学生以上一般	50人	観察のこみちの樹木を調べよう (グリーンアドベンチャー事業)
”	5/24	親子・一般	30人	水生昆虫を調べよう
”	3/7	小学生以上一般	40人	野鳥をみよう
ジュニア恐竜探検隊	7/25~26	親 子	50人	恐竜のふるさとをたずねよう (対象：東濃・飛驒地区) 宿泊：白川郷ロッジ
”	8/8~9	”	50人	” (対象：東濃・飛驒以外の地区) ”
親子教室	5/5	親 子	50人	やきもの(1) (施文具と土器をつくろう)
”	6/14	”	30人	昆虫標本をつくろう
”	6/21	”	50人	やきもの(2) (日用品をつくろう—施釉—)
”	8/9	”	40人	火おこし器をつくろう
”	8/23	”	30人	化石のクリーニングをしよう
”	8/30	”	50人	竹細工 (笛・竹とんぼをつくろう) 竹細工師 石原文雄氏
”	12/6	”	30人	版画 (年賀状をつくろう)
”	12/13	”	50人	凧づくり (つくって揚げよう) 竹細工師 石原文雄氏
”	12/20	”	50人	わら細工 (しめなわをつくろう) わら細工師 大野仁久氏
写生会	2/14	小学生以上一般	100人	博物館資料をかこう (甲冑・土器・鳥・動物など)
ふるさと探訪	3/20	親子・一般	37人	真桑文楽をたずねて
民俗芸能	5/3	小学生以上一般		関孫六太鼓 (雨天時5/4に順延)

III 平成3年度のあゆみ

〔職員〕

職 名	氏 名	職 名	氏 名
館 長	篠 田 幸 男	[学 芸 部]	
次 長 兼 総 務 課 長	尾 藤 俊 二	学 芸 部 長	清 水 昭 男
(総 務 課)		課 長 補 佐 兼 人 文 係 長	安 藤 和 男
総 務 係 長	武 田 正 雄	課 長 補 佐	尾 関 章
主 任 事	市 原 聡	〃	川 瀬 善 忠
主 事	吉 田 明 美	〃 (学芸員)	安 田 守
〃	鈴 木 猛 久	〃 (〃)	今 津 利 治
〃	仁 科 純 子	課 長 補 佐 兼 自 然 係 長 (学芸員)	國 光 正 宏
技 師	林 作 男	課 長 補 佐	遠 藤 俊 治
業 務 嘱 託 員 (～8月)	三 浦 佳 子	〃	中 島 恬
〃 (～12月)	土 田 みゆき	〃 (学芸員)	後 藤 常 明
〃 (～12月)	島 戸 由 里 子	学 芸 嘱 託 員 (学芸員)	説 田 健 一
〃 (～7月)	青 木 千 真	課 長 補 佐 兼 教 育 普 及 係 長	小 川 敏 雄
〃	藤 井 敬 子	学 芸 主 事	大 平 高 司
〃	坂 井 真 紀	学 芸 嘱 託 員	近 藤 普 潤
〃 (10月～)	長 谷 川 陽 子	〃	山 口 登
〃 (10月～)	林 崎 明 美		
〃 (1月～)	亀 山 綾 子		
〃 (1月～)	加 藤 京 子		

〔日誌抄〕

転出 館 長	伊藤 秀幸	転入 館 長	篠田 幸男
課長補佐兼教育普及係長	堀部 満	次長兼総務課長	尾藤 俊二
主 任	山口 弘子	課長補佐兼教育普及係長	小川 敏雄
主 事	鷺見 信明	主 任	市原 聡
退職 次長兼総務課長	竹下 修	新任 主 事	仁科 純子
学芸嘱託員	大沢 淳一	学芸嘱託員	山口 登
〃	長尾 智	〃	説田 健一
業務嘱託員	石井 敬子	業務嘱託員	坂井 真紀
〃 (7月31日)	青木 千真	〃 (10月1日)	長谷川陽子
〃 (8月31日)	三浦 佳子	〃 (〃)	林崎 明美
〃 (12月31日)	土田みゆき	〃 (1月1日)	亀山 綾子
〃 (〃)	島戸由里子	〃 (〃)	加藤 京子

平成3年度
4・1 「岐阜県博物館報」第14号発行

〃 「岐阜県博物館だより」第45号発行
21 日曜講座「石のふしぎ」

- 22 特別展「ふるさとの木の文化」開場式
(6月16日まで)
- 25 岐阜県恐竜化石学術調査推進委員会
- 28 博物館友の会総会
- 5・2 平成3年度四館会議
- 3 親子教室「やきもの1(土器・はにわ
をつくろう)」
- 4 民俗芸能「関孫六太鼓」
- 9 岐阜県博物館協会総会
- 12 特別展講演会「岐阜県における木器文
化」
- 26 特別展講演会「山に生きた人々—木地
師について」
- 6・2 親子教室「植物標本をつくろう」
- 5 企画展「濃尾大震災100年のすべて展」
開場(6月16日まで)
- 9 日曜講座「岐阜県の木地師」
- 13~14
東海地区博物館連絡協議会総会(於:
岐阜市)
- 16 親子教室「やきもの2(日用品をつく
ろう—施釉)」
- 17~24 全館くん蒸消毒
- 7・9 特別展「ふるさとの哺乳動物」開場式
(9月8日まで)
- 21 特別展講演会「身近にいる哺乳動物」
- 28 特別講座「恐竜の生きていたころ」
- 8・3~4 ジュニア恐竜探検隊(於: 荘川村
・白川村)
- 4 日曜講座「土器の見分け方」
- 6 児童生徒科学作品展移動展開場(8月
18日まで)
- 6 「岐阜県博物館見直し事業」調査研究会
- 9 百年公園と博物館との連絡会議
- 10~11 ジュニア恐竜探検隊(於: 荘川村
・白川村)
- 11 親子教室「火おこし器をつくろう」
- 18 特別展講演会「岐阜県下のサルと人」
- 25 日曜講座「ふるさとの哺乳動物」
- 9・1 親子教室「竹細工(笛・竹とんぼをつ
くろう)」
- 5 「岐阜県博物館見直し事業」調査研究会
- 8 自然観察会「水生昆虫を調べよう」
- 14 企画展「森の文化展」開場(9月23日
まで)
- 15 親子教室「木切れをつかってものをつ
くろう(1)」
- 16 自然観察会「観察のこみちの樹木を調
べよう」
- 22 親子教室「木切れをつかってものをつ
くろう(2)」
- 23 自然観察会「森の昆虫を調べよう」
- 26 アメリカユタ州の博物館等視察に職員
派遣(10月3日まで)
- 27 水銀灯・外壁等一部修理開始
- 10・8 置県120年・岐阜鹿兒島姉妹県盟約20周
年記念展「鹿兒島—その自然と歴史—」
開場式(11月24日まで) 梶原知事挨拶
- 13 記念展講演会「海を渡る蝶—渡瀬線と
生き物たち」
- 17~18
東海3県博物館協会交流研修会(於:
恵那市)
- 20 日曜講座「隼人の世界」
- 27 日曜講座「薩摩藩の形成と発展」
- 11・3 第2回文化講演会「島津斉彬の集成館
事業と薩摩切子」
- 9 土屋鹿兒島県知事一行来館
- 17 記念展講演会「近代日本を築いた鹿兒
島県人」
- 20 入館者140万人達成
- 24 日曜講座「鹿兒島の貝」
- 12・1 親子教室「版画(年賀状をつくろう)」
- 5 岐阜県博物館協議会
- 8 親子教室「凧づくり(つくって揚げよ
う)」
- 12 資料紹介展「昆虫の世界」(1月26日ま
で)
- 15 親子教室「わら細工(しめなわをつく
ろう)」
- 19 恐竜「イグアノドン」全身骨格複製除
幕式
- 1・12 日曜講座「昆虫と人とのかわり」
- 23 岐阜県教職員互助組合より書架寄贈
さる。図書資料室拡張
- 26 日曜講座「都市と水」
- 2・9 日曜講座「まぎらわしい植物」
- 12 特別陳列「学校宝物展」(3月31日まで)
- 16 写生会「博物館資料をかこう(甲冑・
土器・恐竜・鳥・動物など)」
- 18 「岐阜県博物館見直し事業」調査研究会
- 25 伝記「棚橋源太郎—博物館にかけた生
涯」編集、岐阜文芸社より寄贈さる
- 3・1 自然観察会「野鳥を見よう」
- 6 プリカムヤング大学より恐竜化石到着
- 8 桜の苗15本植樹
- 11 平成3年度岐阜県博物館協会常任理事
会
- 15 ふるさと探訪「苗木城をたずねて」
- 31 岐阜県博物館協議会より「新しい時代
・県民ニーズに対応する博物館の在り
方について」答申

〔実施事業の概要〕

前年度博物館協議会に諮問した「新しい時代、県民ニーズに対応する博物館の在り方」についての本答申を受けた。また、博物館20周年見直し調査研究会より「マイミュージアム」（仮称）構想等が提起された。4年度以降それぞれの課題に関する検討が加えられる。

施設・設備面では、外壁、水銀灯等の一部補修、常設展示室のキャプションや液浸標本等の一部更新を行った。

また、県内小中学生の教育課程による団体入館料免除が制度化された。棚橋源太郎先生の顕彰にかかわっては、伝記『棚橋源太郎—博物館にかけた生涯—』（宮崎惇著）を編集した。

1. 調査研究活動

岐阜県恐竜化石学術調査団は、2年次の調査を荘川村まで含めて実施、成果を報告書に発表した。人文・自然両分野の既設テーマの追究も

進捗し、成果を特別展等や報告書に発表した。

2. 展示活動（下表参照）

置県120年・岐阜鹿兒島姉妹県盟約20周年の記念展「鹿兒島」（鹿兒島県共催）を開催した。特別展（春夏の2本）、資料紹介展（1本）のほかに新しく特別陳列「学校宝物展」を実施した。

また、「森の文化展」等他機関主催の展示を3本導入した。

3. 資料収集活動

12月、イグアノドンの全身骨格化石（複製）を購入展示、またブリガムヤング大学（ユタ州）蔵の恐竜化石を借用した。例年のように自然分野では採集物の資料化と登録が進み、人文分野では長良川漁具40点等の寄贈があった。

4. 教育普及活動

新事業として、ジュニア恐竜探検やグリーンアドベンチャーを企画し、図書資料室の拡張を図った。また、広報活動の組織化が一層進んだ。

入館者数は70,189人であった。

事業名	期間	展示内容	入館者数
常設展	年間	1階自然展示室は郷土の自然、2階人文展示室は郷土の歩みと美術工芸。刀剣コーナは基本的に年3回の展示替え。	70,189
記念展 ・鹿兒島 —その自然と歴史—	10/9～11/24	火山と海に象徴される鹿兒島の自然と風土、及び旧石器時代から西郷・大久保の時代に至る歴史を総合的に紹介。	17,709
特別展 ・ふるさとの木の文化 —木地師の技と現代木工 クラフト—	4/23～6/16	木地師の技と伝統と、それが現在の木工業に受け継がれている様子を紹介。	16,442
・ふるさとの哺乳動物	7/10～9/8	県内に生息する哺乳動物を中心に、その分布や暮らしぶりを紹介。	10,461
企画展 ・濃尾大震災100年の すべて展	6/5～6/16	濃尾大震災と防災に関する資料を紹介。	3,456
・森の文化展	9/14～9/23	森林と人間とのかかわりを紹介。	2,928
特別陳列 ・学校宝物展	2/12～3/31	県内49校の高等学校・特殊教育学校の「宝物」90点を紹介。	7,415
資料紹介展 ・昆虫の世界	12/12～1/26	昆虫の生態、人間とのかかわりを紹介。	5,447
児童生徒科学作品展	8/6～8/18	前年度の優秀作品から一部を紹介。	3,039

〔刀剣・スタディーコーナー〕

1. 刀剣コーナー

当館では、人文展示室2に刀剣コーナーを設け、美濃の刀剣を中心に展示している。3年度は、人文展示室2を夏季特別展「ふるさとの哺乳動物」と記念展「鹿児島」の展示会場にあて

ため、7月1日から9月8日までは特別展示室に刀剣コーナーを移し、展示し、9月9日から12月1日までは刀剣の展示はしなかった。3年度の年間展示資料は下記のとおりである。

第1期	第2期	第3期
平成3年4月1日 ～平成3年6月30日	平成3年7月1日 ～平成3年9月8日	平成3年12月2日 ～平成4年3月31日
刀 無銘 志 津 刀 無銘 直 江 志 津 刀 銘 濃州赤坂住兼元 太刀 銘 兼 光 刀 銘 兼 道 刀 銘 国 信 短刀 銘 兼 直 大身槍銘 同 田 貫 信 賀	刀 無銘 志 津 刀 無銘 直 江 志 津 刀 銘 濃州赤坂住兼元 刀 無銘 伝 正 宗 刀 銘 国 廣 太刀 銘 兼 光 槍 銘 兼 若 大身槍銘 同 田 貫 信 賀	刀 無銘 志 津 刀 無銘 直 江 志 津 刀 銘 濃州赤坂住兼元 刀 銘 濃州関住兼定 太刀 銘 兼 光 刀 無銘 大 道 刀 銘 兼 道 槍 銘 兼 若

2. スタディーコーナー

動物・植物・地学の各分野ごとに、輪番でトピック的な問題を取り上げたり、小さなテーマを設定したりして資料を展示・紹介している。

「ふるさとの岩石——堆積岩」……3月～4月

岐阜県には、種々の岩石が分布している。今回はいろいろな堆積岩を紹介した。

「岐阜県のチョウ」……5月～6月

岐阜県にゆかりのある「ギフチョウ」と高山チョウを中心に、県内に生息するチョウの標本を紹介した。

「たべられるきのこ」……7月～8月

岐阜県内で見られる食べられるきのこを、写真パネル、乾燥標本、液浸標本、解説パネルにより紹介した。

「石灰岩の世界」……9月～10月

フズリナ石灰岩やサンゴ石灰岩、鍾乳石など炭酸カルシウム(CaCO₃)を主成分とする堆積岩とその利用について紹介した。

「岐阜県の留鳥(1)」……11月～12月

県内には260種ほどの野鳥が見られる。その半数近くが1年中生息地を変えない留鳥である。今回はキジ、ムクドリなど身近な鳥を紹介した。

「岐阜県のスマレ」……1月～2月

岐阜県産スマレ属のうち、親しみやすい種類を選び、カラー写真、写真パネル、実物腊葉標本、複製標本(レプリカ)で紹介した。

「くらしの中の石」……3月～4月

昔から人々は、いろいろな石の製品や石を製練して得た金属でつくった道具を使ってきた。その一端について紹介した。



〔特別展・記念展〕

1. 特別展「ふるさとの木の文化」

—木地師の技と現代木工クラフト—

4月23日(火)～6月16日(日)

木地師は轆轤師、挽物師などともいわれ、轆轤を用いて椀や盆などの木地製品を作って生計を営んでいた。木地師は斧、鋸、鉋、鉋などの木工用具と轆轤を携え、おもにブナ帯に生えるトチノキ、ブナなどの樹木を利用し木地を挽いた。そして、材料として利用する樹木がなくなると、ほかに良材を求めて山から山へと渡り歩いた。

「木の国、山の国」といわれる岐阜県には、木地師の伝承が数多く残っている。美濃、飛騨国は木地師にとって格好の活躍舞台であった。

本展では、岐阜県内に残されている木地師の道具や作品、農耕社会とは異なった木地師の社会を紹介し、その技と伝統が本県の代表的な地場産業の一つである木工業に脈々と受け継がれていることへの理解と、地場産業の一層の発展を図る一助となるよう企画した。

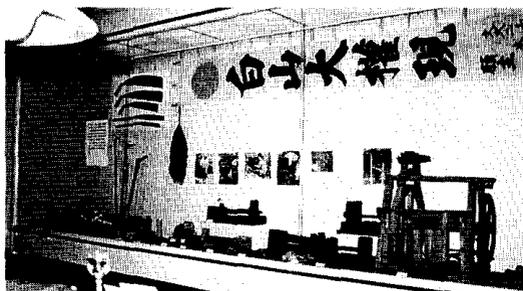
〈展示内容〉

(1) 木の国岐阜県

岐阜県は、長い歴史のなかで木工の技術が高度に発達し、建築や彫刻、塗物などの伝統工芸文化をつくり出してきた。こうしたすぐれた文化を春慶塗、仏像、一刀彫などで紹介した。

(2) 轆轤

ここでは、奈良時代にわが国で製作された最も代表的な轆轤作品である百万塔をはじめ、鎌倉、室町時代の瓶子や平鉢などを展示し、轆轤が古くから使用されてきたことを紹介した。



(3) 木地師の社会

木地師の間には、惟喬親王が轆轤を發明したという伝承があり、また近世になると氏子狩が行われた。惟喬親王像掛軸や氏子狩帳、木地師の特権を認めた編旨、免許状、木札などを展示し、山から山へと移り住みながらも、全国的組織を作って暮らしていた木地師を紹介した。

(4) 木地師の道具と作品

木地師が最も大切にしていた轆轤をはじめ、木取りから仕上げまでに用いたさまざまな道具を展示し、木地師の仕事が理解できるように心がけた。また、木地師によって作られた日用雑器や工芸品、大名道具など、多彩な作品を紹介した。

(5) 現代の木工

木地師の技と伝統が現在の木工業に受け継がれているようすを、岐阜県の卓越技能者の作品を中心に展示し、併せて飛騨春慶や玩具、ウッドクラフトも紹介した。

(6) ふるさとのさまざまな木

木地師が活躍する背景となった豊かな木の恵みを、岐阜県に生育する樹木の標本と、それらの樹木から作られた家具や民具などで紹介した。

〈関連事業〉

○特別展講演会

「岐阜県における木器文化」

5/12(日) 飛騨民俗学会会長 角竹 弘氏

「山に生きた人々—木地師について—」

5/26(日) 日本木地師学会会長 杉本 壽氏

○木地師の実演

5/4・5(土・日) 白川郷合掌の里 坂次 昇氏

○県博日曜講座

6/9(日) 「岐阜県の木地師」

2. 特別展「ふるさとの哺乳動物」

7月10日(木)～9月8日(日)

古くから人と哺乳動物とのかかわりは深く、人は哺乳動物を家畜、ペット、労働力にするなど親しく接してきた。こうした身近な動物も含め自然には多くの動物が生息している。

岐阜県は、豊かな自然に恵まれ、日本有数の動物の生息地である。特別天然記念物のニホンカモシカをはじめ、天然記念物のヤマネ、帰化動物のアライグマ、ヌートリアなど、現在19科53種の野生哺乳動物の生息が確認されている。しかし、中には減少傾向にあるものも少なくなく、ヤマネ、ホンシュウモモンガ、ホンドオコジョなど9種が環境庁指定の希少種になっている。

かつて、県下の山河でも見ることができたといわれるニホンオオカミ、ニホンカワウソが姿を消してからすでに久しく、ニホンオオカミに至っては種が絶滅したと考えられている。近年における哺乳動物の分布域の縮小や個体数の減少などは、自然を守ることに動物からの警鐘といえる。

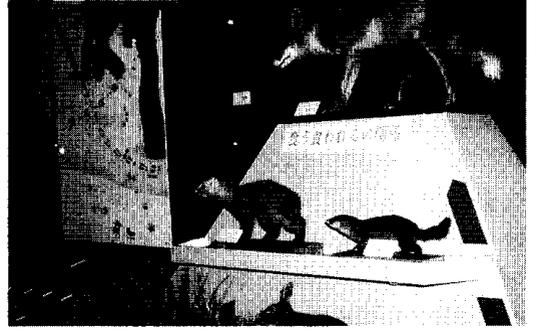
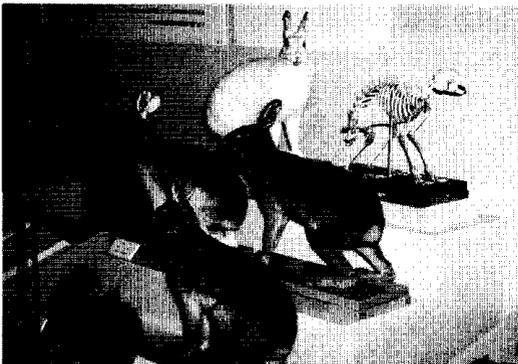
今回の特別展では、県内に生息する哺乳動物のほとんどの種類を展示紹介した。そして、動物たちが自然の中で生き抜いている姿に焦点を当て、体の仕組み、特徴やその暮らしを紹介した。

〈展示内容〉

展示は、次の4コーナーに分けて、哺乳動物82種277点を展示した。

(1) 哺乳動物とは

導入コーナーとして、哺乳動物の進化の様子、



体のつくりやその特徴を骨格、卵、幼獣などで解説した。また、ホッキョクグマ、ゴマフアザラシ、アフリカゾウ、コアラなどを例にして哺乳動物の多様性を紹介した。

(2) ふるさとの哺乳動物

県内に生息する19科53種のうち49種の剥製標本を展示するとともに、冬毛と夏毛のちがいを、年齢別、生息分布、食べ物などからその暮らしぶりを明らかにした。さらに、幻の動物といわれ県内では絶滅種に記録されているニホンオオカミ、ニホンカワウソを標本、頭骨、写真パネルで紹介し、自然保護の大切さを強調した。

(3) けものたちのドラマ

ふん、足跡、食性が異なる動物の骨格から自然の中で動物相互がかかわりながら生き抜いている営みを浮き彫りにした。

(4) 人と哺乳動物

哺乳動物の一員であるヒトに焦点を当て、その進化の過程やイヌ、キツネ、タヌキなどヒトと身近に生活し、古くから親しまれている動物を紹介した。

〈関連事業〉

○特別展講演会

「身近にいる哺乳動物」

7/21(日) 奈良教育大学助教授

前田喜四雄氏

「岐阜県下のサルと人」

8/18(日) 名古屋学院大学教授

廣瀬 鎮氏

○県博日曜講座

8/25(日) 「ふるさとの哺乳動物」

○図録 「ふるさとの哺乳動物」(B5判42ページ)

3. 記念展「鹿児島—その自然と歴史—」

10月9日(木)～11月24日(日)

岐阜県博物館は開館5周年を記念して、「宝暦治水と薩摩藩」を開催し、その至難の偉業を完遂した同藩を紹介した。本年は岐阜鹿児島姉妹県盟約20周年にあたるため、これを記念して、豊かな風土と特色のある歴史・文化を紹介することにより、異なる風土と歴史に生きる岐阜県民のたいなる刺激とすると同時に、両県の友好・親善を深める機会とした。

〈展示資料数〉

特別天然記念物など自然関係資料	492点
南九州を代表する考古関係資料	478点
特色ある民俗資料	46点
島津家ゆかりの歴史・美術工芸資料	227点
パネル・VTR 資料	28点
(総数1271点)	

〈展示構成の概要〉

(1) 火山と海と隼人のくに

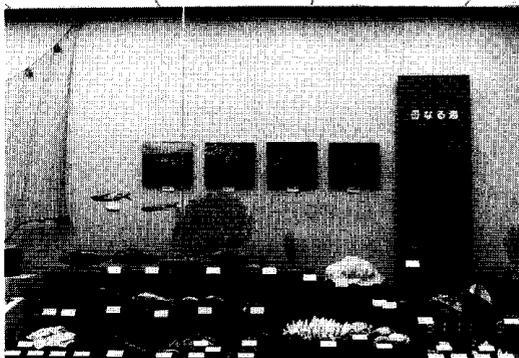
「父なる火山」「母なる海」「ふりそそぐ太陽」「隼人のくに」「南に開かれた窓」のコーナーで豊富な自然・考古・民俗資料及び岐阜県出身の刀鍛冶八板金兵衛清定らによって作られたとされる種子島銃などを通して、鹿児島の風土と文化を紹介。

(2) 島津氏の治世

「薩摩と島津家」「伝統の技と集成館事業」のコーナーで、太閤検地尺や薩摩焼・薩摩切子などの歴史・美術工芸資料を通して薩摩士風や島津家を紹介。

(3) 西郷と大久保

二人の遺品や遺墨を対比させながらその業績や人間性を紹介。併せて二人がかかわった西南



戦争の概要を錦絵などで紹介。

〈関連事業〉

○記念展講演会

「海を渡る蝶—渡瀬線と生き物たち—」

10/13(日)鹿児島県立博物館長 福田晴夫氏

「近代日本を築いた鹿児島県人」

11/17(日)鹿児島大学助教授 原口 泉氏

○文化講演会

「島津斉彬の集成館事業と薩摩切子」

11/3(祝) 薩摩ガラス工芸KK

代表取締役社長 新村和憲氏

○日曜講座

「隼人の世界」 10/20(日)当館学芸員

「薩摩藩の形成と発展」 10/27(日)当館学芸員

「鹿児島の貝」 11/24(日)当館学芸員



○図録「記念展 鹿児島—その自然と歴史—」出版

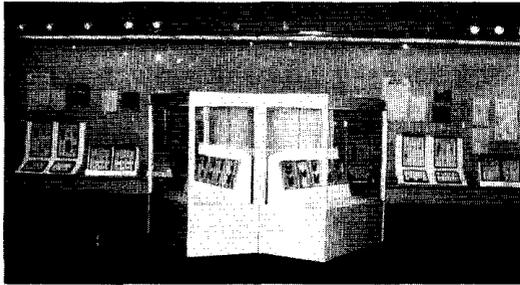
鹿児島の自然、考古、民俗、歴史、美術工芸について、展示構成に沿ったこれまでに類を見ない自然・人文両文野にわたる展示資料解説書。B5判96ページ(内カラー12ページ)。

〔資料紹介展〕

昆虫の世界

12月12日(木)～1月26日(日)

今から約4億年前に地球上に出現したといわれる昆虫は、長い年月を経て生活場所を広げてきた。現在、その種類は150万種を超え、全動物中の60%以上を占めており、哺乳動物と共に最も繁栄しているグループである。



▲展示風景1

県内で比較的調査の進んでいるチョウ、トンボでいえば、チョウは日本産の60%にあたる約150種、トンボは半数近くの95種が確認されている。このことは、岐阜県に生息する昆虫相の豊かさを物語っている。中にはギフチョウ、ムカシヤンマのように県内で最初に発見された岐阜県にゆかりの深い昆虫もいる。

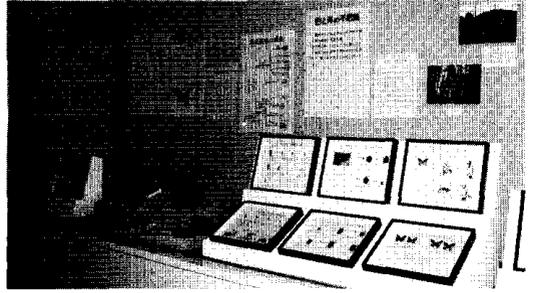
本資料紹介展では、県内の昆虫に限らず外国産の珍しい標本もまじえ約200種を展示し、彼らの習性、体の特徴、すみか食べ物など、昆虫の神秘的な生態を紹介した。また、人間生活とのかかわりについても考えることで、昆虫への理解が一層深められるように企画した。

同時に、昨年、太田等氏より博物館に寄贈していただいた外国産チョウ類などもこの機会に紹介した。

〈展示構成〉

(1) 昆虫とは

昆虫は体の表面がクチクラにおおわれ、成長に伴い脱皮を行う節足動物に属する。このコーナーでは、三葉虫、カブトガニ、イセエビ、アサヒガニ、サソリなど様々な節足動物を展示し昆虫の体の仕組みと比較することで、彼らの系



▲展示紹介2

統関係を明らかにした。

(2) 色と形の不思議

このコーナーでは昆虫が自然の中で懸命に生きている様子を形態や習性から浮き彫りにした。最近のトピックスもまじえ、目立つ、潜む、おどす、闘う、という4つのテーマでスズメバチ、コノハムシ、カブトムシなどを展示紹介した。

(3) 昆虫の食べ物

昆虫の食べ物は多種多様である。しかし、何でも食べる雑食性の昆虫は少なく、ほとんどが特定の餌^{えさ}を食べている。このコーナーでは、花に集まるチョウやハチ、葉を食べるハムシなどの植物性昆虫とこの、動物の死体、ふんといった不安定な餌資源に頼るキノコムシ類、シテムシなどの甲虫を展示紹介した。

(4) 様々な環境に生きる

昆虫は小さな体と運動能力を生かし、深海を除くあらゆる環境に進出した。ここでは水中、洞くつ、高山帯など特殊な環境に適応した昆虫を紹介した。

(5) 人と昆虫

昆虫は古くから人々の暮らしと深くかかわってきた。昆虫採集、虫を愛でる日本人、害虫、虫を食べる、というテーマで、ホタルなどの愛玩昆虫、ウンカ、ゴキブリなどの害虫、イナゴ、クロスズメバチなどの食用昆虫を展示紹介した。

〈関連事業〉

○県博物日曜講座

1/12(日)「昆虫と人とのかかわり」

○配布資料 パンフレット「昆虫の世界」

(B5判12ページ)

〔特別陳列〕

学校宝物展

2月12日(水)～3月31日(火)

それぞれの学校には、その地域の歴史を背景に今日まで続いてきたという歴史と伝統が存在し、その学校にとって大切な記念品ともいべき品々がある。また、学校にはその地域の様々な文化的遺産が寄せられることもあった。



▲東濃養護学校保管
生徒共同制作「はにわ」

本特別陳列では、県内49の高等学校、特殊教育学校に大切に保管されてきた「宝物」を一挙に公開した。そして、学校の果たしてきた役割の一端を紹介し、各学校への理解を深めるとともに、郷土の文化を再発見していただく一助になるよう企画した。

〈主な展示構成〉

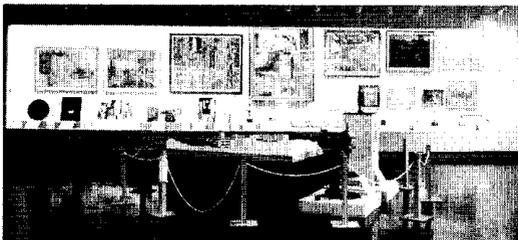
1. 絵画の部（玄関や図書室等に掲げられている絵画等。）2. 書の部（校長室や職員室に掲げられ、校訓などが書かれた扁額等。）3. 歴史資料の部（学校の歴史を物語る資料。）4. 教育成果の部（学校の校史に残る部活動等の活躍の成果。）5. その他（学校へ寄せられ記念品として保管されている資料等。）

〈主な展示資料〉

(1) 中川とも画「作品A」恵那高校保管

昭和26年～40年まで中川ともが恵那高校で美術教師を務めたとき、生徒をモデルに描いた作品。

(2) 皇太后陛下「御歌」岐阜聳^{そび}学校保管



▲恵那高等学校保管
中川とも画「室内A」

(3) 佐藤栄作筆「士魂商才」大垣商業高校保管
大垣商業高校創立70周年に当たり、元内閣総理大臣佐藤栄作氏が揮毫された扁額。

(4) 旧陸軍兵舎鬼瓦と鉄兜 岐阜東高校保管
岐阜東高校の校地は歩兵第68聯隊^{れんたい}の跡地である。この旧陸軍兵舎の屋根の鬼瓦と陸軍が使用した鉄兜。

(5) 昭和11年第22回全国中等学校優勝野球大会優勝旗 県立岐阜商業高校保管

昭和11年第22回大会は岐阜商業高校が初出場初優勝を飾った記念すべき大会である。これは、松井・野村の両投手の好投で平安中学に9対1で勝ち全国665校の頂点に立ったときの優勝旗。

(6) 生徒共同制作「はにわ」

学校祭の「窯まつり」に出品するため、生徒が共同で制作し、野焼きされた作品。

その他加茂高校ボート部が昭和40年から国体4連勝した時の賞状や過去17回の全国制覇を成し遂げた岐阜女子商業高校ホッケー部の優勝レプリカ等。

〈展示資料数〉

絵画 16点 書 14点 歴史資料 26点
教育成果 34点 その他 5点 総計95点
賛助出品 1点（岐南工業高校）

〈出品校〉

公立高校・特殊教育学校 44校

私立高校 5校

計49校

本特別陳列の資料について、各高校、特殊教育学校から200字以内の原稿をいただき、展示解説をし、解説書（B5判34ページ）を作製した。

昭和40年岐阜国体の折、昭和天皇・皇后陛下が来校され鼓笛隊の演奏をお聞きになり、お詠みになった御歌を入江相政侍従が書かれたもの。

〔調査研究・資料収集活動〕

—自然部門—

1. 調査研究

〈動物分野〉

(1) 奥美濃の自然調査及び資料収集

本年度より3か年にわたり、奥美濃地方の動物調査を計画した。初年度は郡上郡に重点を置き、小型哺乳動物と昆虫類の調査及び資料収集を行った。収集した資料は、アカネズミ、ヒメネズミとアカバマルタマキノコムシ、ヤマトネズイなど22個体であった。

(2) 白山の昆虫類調査

前年に引き続き白山東斜面を中心とした昆虫類の補足調査を実施した。収集した主な資料はギフチョウ、クジャクチョウ、アオバチビオオキノコ、オオキバハネカクシ、クワガタゴミムシダマシ、クロボシヒラタシデムシであった。

(3) カラスの^{なご}塒調査

県内におけるカラスの冬季^{なご}塒分布と^{なご}塒数を調べた。本調査の最終年度にあたり、その成果を「調査研究報告」第12号で発表した。

〈植物分野〉

(1) 奥美濃の自然調査（4月～11月）

本巣郡（本巣町・梶尾村）、山県郡美山町、武儀郡（洞戸村・板取村・上之保村・武儀町）、郡上郡（大和町・美並村・八幡町・白鳥町・高鷲村）において資料収集・写真撮影を行った。収集資料は特別展用資料として保管。

(2) ネコノメソウ属植物標本の収集と資料目録作成

岐阜県産ネコノメソウ属植物の調査にかかわり、本県産の全種を収蔵・登録した。特にヤマネコノメソウの変異に注目して岐阜県西部から東濃丘陵地を詳細に調査した。その結果、県南部には雄しべが4本あるヨツシベネコノメ型がほとんどで、本来の雄しべが8本のは極めてまれであることがわかった。目録は「調査研究報告」第12号で発表した。

(3) スミレ属・スゲ属・アザミ属植物その

他の資料収集

昨年に引き続き、県内外の各地にて植物資料を収集した。これによりハガクレツリフネソウおよびアズマ（イブキ）レイジンソウをはじめとする多くの植物の新産地を確認した。特にスミレ属については次年度も重点にしたい。

〈地学分野〉

(1) 岐阜県恐竜化石学術調査

平成元年、岐阜県大野郡白川村大白川上流域で恐竜足跡化石が発見されたのを機会に、平成2年4月学術調査が結成された。本年度はこの調査団の2年目としての活動を行った。

調査団員は、1年次より継続の15名に、白川村教育委員会派遣の2名を含む計17名であった。

現地調査は白川村・荘川村で計6回、そのうち白川村大白川上流域において8日間、荘川村尾上郷川流域において14日間行った。



調査内容は、化石班が白川村と荘川村の2グループに分かれて動物化石を中心とした採取、地質班が荘川村尾上郷川流域の地質調査およびこの地域の地層の絶対年代測定用の岩石の調査・採取であった。

調査結果および成果は「調査研究報告」第12号で発表した。

(2) 恐竜展準備調査

平成4年度特別展・恐竜王国「恐竜一謎とロマン」に向けての調査研究を行った。

(3) イグアノドン全身骨格複製資料の導入
ベルギー王立自然科学博物館所蔵のイグアノドン・ベルニサルテンシスの全身骨格標本の複製を導入し、12月19日除幕式を挙行了した。

(4) ユタ州恐竜化石等実態調査

アメリカ・ユタ州は、世界でも有数の恐竜化石産出地である。9月26日から10月3日まで、当館職員2名が、その実態調査のため訪米した。

2. 資料数一覧

(平成4年3月31日現在)

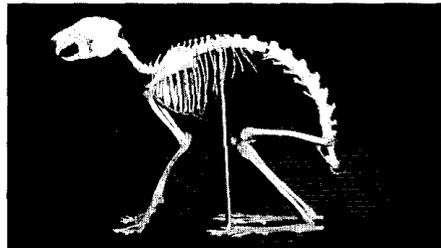
分野	館 蔵				借用	寄託	計
	実物	複製	移管・自作 その他	寄贈 (内数)			
動物	30,573	16	129	(16,564)	0	0	30,718
植物	13,428	44	190	(1,166)	0	0	13,662
岩石・鉱物	2,054	5	73	(537)	18	0	2,150
化石	1,981	35	20	(1,077)	47	28	2,111
その他	63	22	168	(21)	0	0	253
計	48,099	122	580	(19,365)	65	28	48,894

3. 資料寄贈芳名一覧 (敬称略・順不同)

資料名	点数	芳名	資料名	点数	芳名	資料名	点数	芳名
ノウサギ	1	大沢 真美	イカルほか	5	東山 熙	ヤシガニ	1	清水 和泉
"	1	加藤 武久	ウグイス	1	長谷川洋昭	イシガメの卵ほか	4	嶽本清一郎
イヌ	1	関保健所	マガモほか	14	横山 義正	アユ	16	水川 一郎
ホンドイタチ	1	石原鍬岐夫	トビ	1	伊佐治要衛	ヨナグニサン	2	飯田 閑昌
ホンドタヌキ	1	中島利喜男	メジロほか	5	田口 慶昭	秋田県産植物標本	6	高田 順
ヌートリア	1	大沢 真美	アオゲラ	1	澤崎 美江	西濃地域産植物標本	25	広田 艶子
ネコ	1	大垣保健所	"	1	辻 栄介	県内産植物標本	597	二村 延夫
ニホンザル	1	長谷部倉雄	"	1	高井 泰	"	650	岐阜県生物教育研究会
"	1	伊藤 伯夫	"	1	土松 新逸	県内産キク科ほか植物標本	340	長瀬 秀雄
カヤネズミ	1	酒向 保一	カワセミ	1	中島 清人	県内イネ科・アザミ標本	192	長瀬 秀雄
"	1	安藤 志郎	"	1	前田 敬生	スゲ属植物標本	205	長瀬 秀雄
クマネズミ	1	福田 忠	"	1	乾 悦子	羽島郡産植物	38	宮崎 惇
コウベモグラ	1	安藤 志郎	キジバト	1	大沢 真美	飛騨地方産植物標本	394	長瀬 秀雄
カケス	1	井藤 敏朗	フクロウ	1	青谷 農園	コレニア	1	長屋 正秋
ムクドリ	1	高木 正弘	キセキレイ	1	安藤 志郎	シカ大腿骨片	1	中居 裕
シロハラ	1	辻 栄介	ツミ	1	石原鍬岐夫	コランダム	1	伊藤 洋輔
"	1	高木 正弘	コヨシキリ	1	谷 陸海	黄銅鉱	1	梶浦 敬一
トラツグミほか	3	郡上北高科学部	モクズガニ	1	大沢 真美			



▲寄贈資料 (ホンドタヌキほか)



▲ノウサギの全身骨格

— 人 文 部 門 —

1. 調査研究

〈考古分野〉

- 平成3年度記念展「鹿児島」に向けての考古・民俗分野の調査研究。図録にまとめる。
- 平成4年度特別展「飛驒のあけぼの」に向けての調査研究。

〈歴史分野〉

- 平成3年度記念展「鹿児島」に向けての歴史・美術工芸分野の調査研究。図録にまとめる。
- 平成4年度特別展「近世に輝く濃飛の群像」に向けての調査研究。

〈美術・工芸分野〉

- 県内の仏教美術（主として仏像）に視点を当てて白鳥町、柳津町、白川村等を調査。「調査研究報告書」にまとめを発表。

〈民俗分野〉

- 平成3年度特別展「ふるさとの木の文化」のまとめとして、氏子狩帳を基に岐阜県の木地師についての調査研究。「調査研究報告書」にまとめを発表。

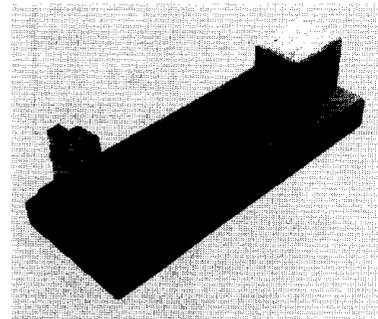
2. 資料数一覧

分 野	館 蔵				借 用	寄 託	計
	実 物	複 製	そ の 他	寄 贈 (内数)			
考 古	1,993	166	52	(1,797)	601	186	2,998
歴 史	1,183	31	122	(1,170)	21	163	1,520
民 俗	2,003	2	9	(2,003)	213	30	2,257
美術・工芸	226	17	37	(172)	274	1,248	1,802
そ の 他	0	0	0	(0)	0	1	1
計	5,405	216	220	(5,142)	1,109	1,628	8,578

複製には模型・ジオラマを含む（平成4年3月31日現在）

3. 資料寄贈者芳名一覧（敬称略・順不同）

資 料 名	点数	芳 名
笏	2	糠塚喜一郎
長良川の漁撈用具	40	服部登
手網	1	加藤昭行
軍刀	1	横井鎮夫
ゴザの止め釘	12	宮崎惇
ロクロ、チョウナ、カツシリ	5	広瀬基一
木地椀製作工程資料	4	飛驒春慶連合同組合



▲ロクロ

〔教育普及活動〕

1. 概略

3年度は、前年度に引き続き教育活動・広報活動に力を入れた。教育活動においては、新たにジュニア恐竜探検隊「恐竜のふるさとをたずねよう」を2回実施したことが特筆される。そのため同時期に行われていた移動展は実施しなかった。

2. 教育活動

教育活動の一つの、日祝日に行っている催しものには、今年も別表（P25）のように多くの参加者があった。参加者の延べ人数は2,068人、1回平均57.4人であった。

新しい試みとしては、ジュニア恐竜探検隊「恐竜のふるさとをたずねよう」を2回実施したことがあげられる。これは、平成元年度発見された恐竜足跡化石のある現地を訪ね、少年少女の恐竜に対する夢を膨らませるとともに、恐竜についての正しい理解を図るという催しであるが、研究者以外では初めて現地を訪れるということもあり、定員の2倍の200名程の応募があった。（小学4年生～中学3年生の子供と親対象）苦勞して自分の力で化石を見つけだすところや、雪どけの冷たい川を渡り大きな石をまたいで現地へたどりつくところなど、大変好評であった。

ほかに新しい試みとしては、グリーンアドベンチャー事業（青少年交友協会）の一環として行われる自然観察会「観察のこみちの樹木をしらべよう」（4/29実施予定）があげられるが、あいにく天気恵まれず中止となった。

また、岐阜県（林政部）主催の企画展「森の文化展」に関連して行われた2つの親子教室・2つの自然観察会に協力した。

記念展「鹿児島—その自然と歴史—」に関連しては、ほぼ毎週のように講演会や講座を開催し（計6回）、記念展を盛り上げた。

館内の教育活動としては、従来通りかなり多くの団体に対してガイダンスや案内解説を行った。しかし、特別展や記念展の案内解説は昨年より少く、検討すべき課題である。12月からイ

グアノドン恐竜骨格化石（複製）が常設展示されたことに伴い、1月から日曜日に2回、学芸員や解説員による恐竜足跡化石及びグアノドン恐竜骨格化石の定期解説を行っている。

3. 解説員研修

解説員全体に対する研修は15回行った。例年より少なかったのは、解説員の入れ替わりが激しかったからである。かわりに、個々に対するマンツーマンの研修を多く行った。

4. 広報活動

恒例の広報活動以外に、本年も郡市校長会への出張広報や、関市各家庭へのちらし回覧を行った。また、特別展・記念展・資料紹介展・特別陳列においては、1紙あるいは2紙の新聞連載を行った。

県外への広報に関しては、昨年と同様愛知県の尾張教育事務所と海部教育事務所の市町村教委ポストを通じて資料配布を行ったほか、名古屋市北西部の小中学校への広報も開始した。

また、本年度から、県内の小・中学校の児童生徒が教育活動として教職員引率のもと団体入館する場合、入館料が免除となる旨全学校へ知らせたが、充分徹底せず、今後の課題となっている。

5. 資料の貸し出し

他館での展示会等に貸し出した主な資料。

(1)自然

- 秋田自然史研究会（7.18～8.18）
シュロソウ属（ユリ科）植物標本ほか 40点
- 藤橋村教育委員会（H4.2.2～3.15）
スライド（アユ・オイカワほか） 16点
- 岐阜市立合渡小学校（H4.1.10～1.20）
マガモ・コガモほかはく製 7点
- 多治見市文化会館（5.24～5.27）
キツネ・タヌキほかはく製 10点
- 岐阜市立長良小学校（10.23～11.7）
マガン・ハヤブサほかはく製 2点
- 関市立安桜小学校（6.10～6.30）
スライド（アユ） 1点
- 洞戸村教育委員会（3.26～4.26）
スライド（ウグイ・ネコギギほか） 15点
- 川島町民会館（6.1～9.1）

チョウ・トンボなど昆虫標本、パネル
12箱250点

(2)人文

- 可児市郷土館 (12.13~H 4.1.30)
十六銅鐸 1口
- 南濃町教育委員会 (11.2~11.5)
円満寺山古墳出土鏡 3面
- 岩村町歴史資料館 (10.21~11.28)
今尾竹腰家所用緋糸威二枚胴具足 1領

6. 博物館実習生指導

信州大学の学生1名を指導した。

7. 図書資料

図書資料室と郷土学習室では約21,000冊の本を開架式で来館者の利用に供している。購入による資料収集のほか、他館との資料交換、寄贈

等により年々その資料は充実してきている。本年度は、図書資料の増加に対応するため、書架を2本増設した。

8. 刊行物

本年度刊行した出版物等は下記一覧の通りである。中でも元当館自然係長宮崎惇氏執筆の「棚橋源太郎—博物館にかけた生涯—」は、好評を得た。

9. 視聴覚関係

郷土学習室では常時ビデオを上映した。特別展等においては、テーマに関連した16mmフィルムやビデオテープを上映した。

また、ビデオテープ「ザ・石油」「日本列島誕生ものがたり」、CD「戸田市の民謡」を寄贈された。

平成3年度 刊行物一覧

名 称	発行年月日	判・頁	部 数	備 考	
岐阜県博物館だより 第44号	3. 4. 1	B 5 4頁	2,500	友の会増刷 (各1,000) (500)	
〃 第45号	3. 7. 1	〃 〃	〃		
〃 第46号	3. 10. 1	〃 〃	〃		
岐阜県博物館報 第14号	3. 4. 1	B 5 32頁	750		
岐阜県博物館調査研究報告 第13号	4. 3. 31	B 5 72頁	700		
平成3年度岐阜県博物館催しもの案内	3. 4. 1	B 4 表裏	30,000		
〃	〃	B 3 表	5,000		
特別展・記念展図録				友の会増刷	
ふるさとの木の文化	3. 4. 22	B 5 32頁	600		(600)
ふるさとの哺乳動物	3. 7. 10	B 5 42頁	600		(600)
鹿児島—その自然と歴史—	3. 10. 9	B 5 80頁	700	(900)	
特別展等ポスター・ちらし				友の会発行	
ふるさとの木の文化 (ポスター)	3. 4. 12	B 2	1,500		
〃 (ちらし)	3. 4. 10	B 5	(20,000)		
ふるさとの哺乳動物 (ポスター)	3. 6. 10	B 2	1,500		
〃 (ちらし)	3. 6. 10	B 5	(20,000)		
鹿児島—その自然と歴史— (ポスター)	3. 4. 10	A 3	3,000		
〃 (ポスター)	3. 9. 6	B 2	1,600		
〃 (ちらし)	3. 8. 20	B 5	(30,000)	友の会発行	
昆虫の世界 (ちらし)	3. 12. 10	B 5	(10,000)	〃	
資料紹介展・特別陳列パンフレット					
昆虫の世界	3. 12. 12	B 5 12頁	1,000		
学校宝物展	4. 2. 12	B 5 34頁	2,000		
単行本				友の会発行	
棚橋源太郎—博物館にかけた生涯—	4. 2. 25	A 5 262頁	(1,000)		
テレホンカード				友の会発行	
恐竜足跡化石と漣痕	3. 5. 31		(500)		

平成3年度 催しもの一覧

事業名	期日	対象	定員	内 容	参加人数
特別展講演会	5/12	一 般		岐阜県における木器文化 飛騨民俗学会会長 角竹 弘氏	62
”	5/26	”		山に生きた人ター木地師について 日本木地師学会会長 杉本 壽氏	157
”	7/21	”		身近にいる哺乳動物 奈良教育大学助教授 前田喜四雄氏	80
”	8/18	”		岐阜県下のサルと人 名古屋学院大学教授 廣瀬 鎮氏	60
記念展講演会	10/13	”		海を渡る蝶一渡瀬線と生き物たち 鹿児島県立博物館長 福田晴夫氏	64
文化講演会	11/3	”		島津斉彬の集成館事業と薩摩切子 薩摩ガラス工業株式会社代表取締役社長 新村和憲氏	112
記念展講演会	11/17	”		近代日本を築いた鹿児島県人 鹿児島大学助教授 原口 泉氏	192
県博日曜講座	4/21	小学生以上一般		石のふしぎ	28
”	6/9	一 般		岐阜県の木地師	39
特別講座	7/28	小学生以上一般		恐竜の生きていたころ	176
県博日曜講座	8/4	”		土器の見分け方	25
”	8/25	”		ふるさとの哺乳動物	31
”	10/20	一 般		隼人の世界	22
”	10/27	”		薩摩藩の形成と発展	14
”	11/24	小学生以上一般		鹿児島島の貝	33
”	1/12	”		昆虫と人とのかかわり	54
”	1/26	”		都市と水	15
”	2/9	”		まぎらわしい植物	27
自然観察会	4/29	小学生以上一般	50人	観察のこみちの樹木を調べよう (グリーンアドベンチャー事業)	中止
ジュニア恐竜探検隊	8/3~4	親 子	50人	恐竜のふるさとをたずねよう 宿泊：白川郷ロッジ	50
”	8/10~11	”	”	”	49
自然観察会	9/8	親子・一般	30人	水生昆虫を調べよう	36
”	9/16	”	”	観察のこみちの樹木を調べよう	11
”	9/23	”	”	森の昆虫を調べよう	37
”	3/1	小学生以上一般	”	野鳥をみよう	45
親子教室	5/3	親 子	30人	やきもの1 (土器・はにわをつくろう)	50
”	6/2	親子・一般	”	植物標本をつくろう	25
”	6/16	親 子	”	やきもの2 (日用品をつくろうー施釉)	57
”	8/11	”	”	火おこし器をつくろう	51
”	9/1	”	”	竹細工 (笛・竹とんぼをつくろう) 竹細工師 石原文雄氏	55
”	9/15	親子・一般	50人	木切れをつかってものをつくろう(1)	48
”	9/22	”	”	” (2)	43
”	12/1	親 子	30人	版画 (年賀状をつくろう)	45
”	12/8	”	”	凧づくり (つくって揚げよう) 竹細工師 石原文雄氏	56
”	12/15	”	”	わら細工 (しめなわをつくろう) わら細工師 大野仁久氏	48
写生会	2/16	小学生以上一般	100人	博物館資料をかこう (甲冑・土器・鳥・動物など)	135
ふるさと探訪	3/15	親子・一般	37人	苗木城をたずねて	36
民俗芸能	5/4	一 般		関孫六太鼓 (雨天5/6順延)	約800

日曜映写会・特別展等ビデオ

4/23~6/16	日曜映写会「奥会津の木地師」(16mm)
7/10~9/8	特別展関連ビデオ「ウサギの里」「リスたちの森」
10/9~11/24	日曜映写会「光のふるさと鹿児島紀行」(16mm)
	記念展関連ビデオ「鹿児島島の天然記念物」「ボゼの出る盆行事」「示現流」
12/12~1/26	資料紹介展関連ビデオ「ナナホシテントウ」「トノサマバッタ」

〔図書資料寄贈者芳名一覽〕

(平成3年4月1日～
平成4年3月31日)

〔博物館関係〕

国立民族学博物館
国立歴史民俗博物館
国立科学博物館
東京国立博物館
京都国立博物館
憲政記念館
郵政研究所附属資料館
岐阜県美術館
岐阜県歴史資料館
岐阜県立図書館
岐阜市科学館
岐阜市歴史博物館
各務原市歴史民俗資料館
川島町ふるさと史料館
大垣市歴史民俗資料館
岐阜県陶磁資料館
瑞浪陶磁資料館
豊蔵資料館
瑞浪市化石博物館
可児郷土歴史館
高山市郷土館
釧路市立博物館
小樽市博物館
札幌芸術の森
北海道立北方民族博物館
浦幌町郷土博物館
利尻町立博物館
苫小牧市博物館
根室市博物館開設準備室
上土幌町ひがし大雪博物館
北海道開拓記念館
北海道開拓の村
斜里町立知床博物館
穂別町立博物館
青森県立郷土館
八戸市博物館
岩手県立農業博物館
岩手県立博物館
仙台市博物館
仙台市歴史民俗資料館
仙台市科学館
東北歴史資料館
鹽竈神社博物館
(財)斎藤報恩会自然史博物館
秋田県立博物館
秋田大学釜山学部附属鉱業博物館
山形県立博物館
山形大学附属博物館
福島県立博物館
福島市児童文化センター
会津民俗館

茨城県歴史館
土浦市立博物館
栃木県立博物館
栃木県立しもつけ風土記の丘資料館
小山市立博物館
群馬県立近代美術館
群馬県立歴史博物館
浦和市郷土博物館
埼玉県立さきたま資料館
埼玉県立自然史博物館
埼玉県立博物館
埼玉県立民俗文化センター
埼玉県立歴史資料館
戸田市立郷土博物館
狭山市立博物館
我孫子市鳥の博物館
市川自然博物館
千葉市立郷土博物館
千葉県立中央博物館
千葉県立安房博物館
千葉県立大根博物館
千葉県立上総博物館
千葉県立総南博物館
千葉県立房総のむら
千葉県立房総風土記の丘
千葉市加曽利貝塚博物館
船橋市郷土資料館
君津市立久留里城資料館
港区立港郷土資料館
豊島区立郷土資料館
世田谷区立郷土資料館
船の科学館
江戸東京博物館
足立区立郷土博物館
太田区立郷土博物館
家具の博物館
紙の博物館
東京農工大付属繊維博物館
東京農業大学農業資料室
サントリー美術館
品川区立品川歴史館
渋谷区立松濤美術館
坂橋区立教育科学館
たばこと塩の博物館
東京都高尾自然科学博物館
八王子市立郷土資料館
府中立郷土の森博物館
福生市郷土資料室
町田市立博物館
国学院大学考古学資料館
国際基督教大学湯浅八郎記念館
明治大学商品陳列館
三井文庫
神奈川県立博物館
神奈川県立自然保護センター

神奈川県立金沢文庫
県立神奈川近代文学館
川崎市市民ミュージアム
川崎市青少年科学館
神奈川近代文学館
大涌谷自然科学館
茅ヶ崎市文化資料館
根岸競馬記念公苑馬の博物館
横浜マリタイムミュージアム
平塚市博物館
秦野市立桜子手古墳展示館
横須賀市自然・人文博物館
長岡市立科学博物館
新潟県美術館
柏崎市立博物館
相川郷土博物館
富山県立近代美術館
富山市郷土博物館
富山市科学文化センター
富山市望牛人記念美術館
石川県白山自然保護センター
石川県立歴史博物館
石川県立美術館
金沢大学理学部付属植物園
小松市立博物館
松任市立博物館
福井県立博物館
福井県市若狭歴史民俗資料館
福井県自然保護センター
福井市立郷土自然科学博物館
福井市立郷土歴史博物館
山梨県立美術館
飯田市美術博物館
上田市立博物館
大町山岳博物館
信濃町立野尻湖博物館
長野市立博物館
松本市立博物館
上原仏教美術館
静岡県立美術館
東海大学海洋科学博物館
沼津市明治資料館
沼津市歴史民俗資料館
浜松市立博物館
富士市立博物館
焼津市歴史民俗資料館
愛知県陶磁資料館
愛知県文化会館
愛知県清洲貝殻山貝塚資料館
熱田神宮宝物館
徳川美術館
でんきの科学館
一宮市博物館
瀬戸市歴史民俗資料館
豊橋市自然史博物館

豊橋市地下資源館
豊橋市美術博物館
豊田市郷土資料館
豊橋市二川宿本陣資料館
蒲郡市博物館
日本モンキーセンター
名古屋市博物館
名古屋市科学館
名古屋市見晴台考古学資料館
南山大学人類学博物館
半田市立博物館
博物館明治村
三好町立歴史民俗資料館
安城市歴史博物館
知立市歴史民俗資料館
鳳来町立鳳来寺山自然科学博物館
岡崎市郷土館
リトルワールド
海の博物館
三重県立博物館
桑名市博物館
神宮復古館農業館
真珠博物館
藤原岳自然科学館
斎宮歴史博物館
滋賀県立琵琶湖文化館
大津市立歴史博物館
市立長浜城歴史博物館
滋賀県陶芸の森
栗東歴史民俗博物館
野州町歴史民俗資料館
彦根城博物館
京都市考古資料館
京都府立総合資料館
京都文化博物館
博物館さかの入形の家
京都丹後郷土資料館
大阪市立博物館
大阪市立東洋陶磁美術館
大阪市立自然史博物館
大阪市立科学館
大阪人権歴史資料館
大阪府立弥生文化博物館
境市博物館
伊丹市立博物館
柏原市歴史資料館
神戸市立博物館
兵庫県立歴史博物館
姫路文学館
西宮市立郷土資料館
西宮市大谷記念美術館
天理大学附属天理参考館
奈良県立民俗博物館
大和文華館
橿原市千塚資料館
和歌山県立自然博物館
和歌山市立博物館
鳥取県立博物館

足立美術館
岡山県立博物館
岡山県立美術館
倉敷市立自然史博物館
津山洋学資料館
新市町立歴史民俗資料館
日本はきもの博物館
広島市立歴史博物館
広島県立歴史民族資料館
広島市安佐動物公園
宮島町立宮島歴史民俗資料館
秋吉台科学博物館
山口県立博物館
徳島県立博物館
香川県立自然科学館
高知県立歴史民族資料館
愛媛県立博物館
松山市考古館
瀬戸内海歴史民俗資料館
九州歴史資料館
北九州市立考古博物館
北九州市立自然史博物館
北九州市児童文化センター
鞍手町歴史民俗資料館
長崎県立美術館
大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
別府大学附属博物館
宮崎県総合博物館
鹿児島県立博物館
鹿児島県歴史資料センター黎明館
鹿児島市立美術館
尚古集成館
種ヶ島開発総合センター
名護博物館
〔博物館協会〕
日本博物館協会
全日本博物館学会
全国科学博物館協議会
埼玉県博物館連絡協議会
愛知県博物館協会
静岡県博物館協会
〔役所関係〕
農林水産省東海農政局・名古屋営林局
関市役所
可児市役所
海津町役場
土岐市役所
笠松町役場
八幡町役場
川島町役場
高富町役場
平田町役場
藤橋村役場
萩原町役場
岐阜市文化センター
各務原市民会館
大垣市文化会館
美濃加茂市文化会館

多治見市文化会館
瑞濃市民図書館
〔教育委員会関係〕
岐阜県教育委員会
岐阜県教育センター
岐阜県情報処理センター
岐阜グリーンテクノセンター
岐阜県同和教育協議会
岐阜県教育委員会文化課
岐阜県小中学校校長会
岐阜県高等学校校長会
岐阜教育会
岐阜県 PTA 連合会
岐阜市教育委員会
各務原市教育委員会
大垣市教育委員会
関市教育委員会
美濃市教育委員会
美濃加茂市教育委員会
可児市教育委員会
恵那市教育委員会
中津川市教育委員会
高山市教育委員会
洞戸村教育委員会
美山町教育委員会
墨俣町教育委員会
藤橋村教育委員会
白鳥町教育委員会
富加町教育委員会
萩原町教育委員会
古川町教育委員会
国府町教育委員会
白川村教育委員会
寒川町教育委員会
北海道教育委員会
東京都教育庁生涯学習部文化課埋蔵文化財係
神奈川県教育庁文化財保護課
市原市教育委員会
相模原市教育委員会
福生市教育委員会
東京都教育委員会
世田谷区教育委員会
神奈川県教育委員会
豊田市教育委員会
春日井市教育委員会
瀬戸市教育委員会
岡崎市教育委員会
豊橋市教育委員会
三好町教育委員会
四日市市教育委員会
滋賀県教育委員会
山東町教育委員会
能登川町教育委員会
豊中市教育委員会
泉佐野市教育委員会
尼崎市教育委員会
西宮市教育委員会
山口県教育委員会

檜原市教育委員会
松山市教育委員会
〔学校関係〕
藍川高等学校
岐阜第一女子高等学校
羽島高等学校
羽島北高等学校
華陽高等学校
大垣農業高等学校
不破高等学校
加茂高等学校
郡上高等学校
関商工高等学校
大垣日本大学高等学校
岐阜県高等学校教育研究会生物部会
岐阜大学教育学部
岐阜薬科大学図書館
岐阜女子短期大学
聖徳学園短期大学
中部女子短期大学
筑波大学
図書館情報大学附属図書館
お茶の水女子大学芸員課程
多摩美術大学
神奈川大学日本常民文化研究所
立教大学芸員課程研究室
明治薬科大学
学習院大学
川村学園女子大学図書館
国学院大学博物館学研究室
明治大学芸員課程
信州大学人文学部比較文化論教室
静岡大学理学部地球科学教室
愛知大学文学會
愛知大学総合郷土研究所
中部短期大学
名古屋経済大学
市邨学園短期大学
名古屋大学文学部美術史研究室
同志社大学博物館学芸員課程
仏教大学図書館
関西大学考古学等資料室
島根大学
山陰地域研究総合センター
〔研究機関、出版社、その他〕
東京国立文化財研究所
奈良国立文化財研究所一飛鳥資料館
宮内庁書陵部
宮内庁正倉院事務所
国立教育会館社会教育研究所
文化庁
北網圏北見文化センター
働いわき市教育文化事業団
地質調査所
栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター
朝霧市泉水山下ノ原遺跡調査会
東京都埋蔵文化財センター
都市学校遺跡調査会

武蔵国分寺関連遺跡調査会
東京大学遺跡調査室
東海大学校内地内遺跡調査団
玉川文化財研究所
働千葉県文化財センター
下鶴間甲一遺跡調査団
神奈川県自然保全研究会
神奈川県立埋蔵文化財センター
小笠原諸島他遺跡分布調査会
山梨文化財研究所
静岡県埋蔵文化財調査研究所
都宮川越道住宅遺跡調査会
五段田遺跡調査会
板橋区仲宿遺跡調査会
板橋区四葉遺跡調査会
日本製鋼所遺跡調査会
日本宇宙少年団
青少年交友協会
国立劇場
濱田耕作先生著作集刊行委員会
日本中央競馬会
日本民俗学会
東レ科学振興財団
日本芸術文化振興会
東京美術倶楽部
民具製作技術保存会
平岡環境科学研究所
働富山県文化財振興財団埋蔵文化財研究所
活断層研究会
東京貝類同好会
富山県埋蔵文化センター
四日市市遺跡調査会
観光資料保護財団
名古屋植物防疫所
愛知県埋蔵文化財センター
瀬戸市史編纂室
黒川古文化研究所
極楽寺宗教文化研究所
近畿地方建設局淀川工事事務所
備前刀学会
日本美術刀剣保存協会
働古代学協会
国際日本文化研究センター
淡神文化財協会
元興寺文化財研究所
帝塚山考古学研究所
ポーラ文化研究所
草戸千軒町遺跡調査研究所
ポーラ伝統文化振興財団
岐阜県広報センター
岐阜県総務課
岐阜県統計課
岐阜県消費生活課
岐阜県自然保護課
岐阜県遺跡維持課
岐阜県文化財保護センター
岐阜県工業技術センター
岐阜県工芸試験場

岐阜県デザイン振興会
岐阜メモリアルセンター
岐阜県国際交流センター
岐阜県御嶽少年自然の家
岐阜県伊自良青少年の家
岐阜県関ヶ原青少年自然の家
岐阜市少年自然の家
土岐少年自然の家
土岐市企画開発課
岐阜県郷土資料研究会
瑞浪市民図書館
岐阜県昆虫同好会
岐阜県歴史資料保存会
国民融合をめざす部落問題全国会議
岐阜民主同和促進協議会
岐阜県山林協会
岐阜県哺乳類動物調査研究会
岐阜県文化財保護協会
養老町文化財保護協会
中山道加納宿文化保存会
揖斐谷の自然と歴史と文化を語る集い
中津川貨幣研究会
欲齋研究会
各務用水土地改良区
中部電力岐阜支社
名古屋鉄道株式会社広報宣伝部
働広島市歴史科学教育事業団
松山市立埋蔵文化財センター
中部電力
郡上史談会
地域社会研究会
東海地理研究会
美濃民俗文化の会
中部蜘蛛懇談会
岐阜コンベンション・ビューロー
書道心画院
霊山顕彰会
日本生命財団
日本の竹を守る会岐阜支部
滋賀民俗学会
滋賀県埋蔵文化財センター
美術文化史研究会
岐阜新聞社
東海民報
北飛ニュース
岐阜中央郵便局
月刊西美濃わが街社
北白川書房
サンメッセ株式会社
株式会社ココロ
東京書籍
岩波書店
啓林館
山川出版社
東京美術
日本美術刀剣新聞社
ほっちぽっち出版部
びあ株式会社

海外学人日刊社
今日郵便月刊社
中華民國僑務委員會
光華畫報雜誌社

〔個人〕

加藤 芳明
渡辺 精市
河合 祐輔
森 忠一
八野 忠次郎
長尾 智
公文 富士夫
小松 茂美
池田 勇次
金子 弘之
阿部 芳久
宮崎 惇
大滝 國義
橋本 鉄男
伊東 久之

〔利用状況〕

1. 入館者数

今年度は、入館者総数70,189人、前年に比べて約1.4%の減少であった。

また、開館日数は299日であり、1日平均の入館者数は235人であった。

月別の入館者数は右表のとおりである。1日の入館者が最も多い日は5月5日で、1,322人を数えた。なお、12月以降の入館者数は、前年の同時期に比べ約48%の増加で、恐竜イグアノドン骨格標本の常設展示の影響が大きい。

団体入館者数をみると、129団体10,767人で入館者総数の約15%にのぼり、月別では10月が最も多く、団体入館者全体の約25%を占めている。

これを県内、県外別にみると、県内が63団体4,662人で全体の約43%を占め、県外では愛知県が圧倒的に多く、66団体6,105人で全体の約57%を占める。

また、3年度より、県内の小中学校の団体入館料免除制度を導入した。今後、団体の入館者増が期待される。

特別展等期間中の入館者数は、右表のとおりであり、入館者数44,612人、1日平均314人であった。これは入館者総数の約64%にあたり、特別展等への関心の高さがうかがえる。

月	小中生	大高生	一般	計	開館日数	一日平均
4	2,690	548	2,657	5,895	25	236
5	2,626	1,678	5,404	9,708	27	360
6	693	252	3,363	4,308	20	215
7	677	146	2,045	2,868	26	110
8	1,664	285	3,640	5,589	27	207
9	2,204	628	3,802	6,632	25	265
10	6,157	91	3,239	9,487	27	351
11	3,515	1,421	4,853	9,789	26	377
12	599	124	2,076	2,799	22	127
1	724	218	2,737	3,679	23	160
2	989	81	3,055	4,125	25	165
3	1,367	222	3,721	5,310	26	204
計	23,903	5,694	40,592	70,189	299	235

特別展名	期間	小中生	大高生	一般	計
ふるさとの木の文化	4.23～6.16	5,129	1,958	9,355	16,442
ふるさとの哺乳動物	7.10～9.8	3,348	756	6,357	10,461
鹿 児 島	10.9～11.24	8,898	1,480	7,331	17,709
計		17,375	4,194	23,043	44,612

2. 施設利用者

今年度の講堂及び研修室の利用者は次のとおりであった。

3. 5. 11	岐阜県哺乳動物調査研究会	3. 8. 17	岐阜県小中学校教育研究会中学校理科研究部会
3. 5. 24	岐阜県高等学校教育研究会社会科学部会	3. 9. 3	岐阜県高等学校長協会
3. 5. 26	岐阜野尻湖友の会	3. 10. 11	岐阜県教育委員会学校教育課長会
3. 6. 8	岐阜県高等学校地理教育研究会	3. 11. 8	岐阜市中学校教頭会
3. 6. 15	日本美術刀剣保存協会岐阜県支部	3. 11. 16	日本美術刀剣保存協会岐阜県支部
3. 7. 21	岐阜県哺乳動物調査研究会	3. 2. 22	岐阜県高等学校理化教育研究会科学史研究グループ

〔博物館関係団会〕

1. 岐阜県博物館協会

岐阜県博物館協会は「会員相互の連絡提携のもとに、社会教育の健全な推進と文化の向上に寄与すること」を目的に、昭和41年に設立された。公開講座（年9回）、機関紙（季刊）、会員研修会（年3回）等の諸活動をくり広げ、設立の目的に沿うよう努力した。

平成4年3月現在、会員館園は115、個人会員は21名、名誉会長以下主な役員は次のとおり。

名誉会長一梶原拓、会長一蒔田浩、副会長一日下部尚・青木允夫・篠田幸男、理事長一松本五三、事務局は岐阜県博物館内にある。

2. 岐阜県博物館友の会

「博物館事業の普及を図るとともに、会員相互の教養を高め、親睦を深めること」をめざして発足した友の会は9年目を迎えた。平成3年度は会員がほぼ昨年並みと定着し、ようやく、次のステップへの上台が整ったといえよう。

まず会員数は486名、年齢構成は50・60歳代が過半数を占め、生涯学習の一端としての友の会の使命を改めて感じさせる。

主催事業のうち、探訪の旅は日帰り3回、1泊2日1回の計4回、他館見学1回を実施した。今後もこのペースを崩さず、内容の一層の充実をめざす。昨年に続いて第2回を実施した文化講演会は、特別展「鹿児島—その自然と歴史—」と相まって、薩摩ガラス工芸社長新村和憲氏を講師に迎えて開催され、県博物館講堂にほぼ満席の聴講者を集め、成功を取ることができた。

このように、かなりの経費を必要とする事業を続けられたのは一般会員の協力はもとより、後援会員のお力添え、資料等の作成頒布が順調に推移し、ある程度の財政基盤が確立されたため、とみてよからう。

今後の課題としては、財政基盤のいっそうの充実を図るとともに、会員増加に伴って研修の旅などの内容の改革、また会員増加に伴う事務量の増加に対応するため、ボランティア活動の

積極的な推進が必要と思われる。

▼第2回文化講演会 熱心に耳を傾ける聴講者



●平成3年度友の会の事業

〈会 議〉

総会 4. 28 役員会 4. 28

〈研修の旅、他館見学、文化講演会〉

- ・ 歴史探訪（岩村城址ほか） 5. 19 41名参加
- ・ 同 （上野城ほか） 7. 14 47名参加
- ・ 同 （若狭路ほか） 10. 20～21 71名参加
- ・ 同 （岡崎城ほか） 3. 1 44名参加
- ・ 他館見学（加藤栄三記念館） 8. 10 20名参加
- ・ 文化講演会（講師：新村和憲氏） 11. 3
115名参加

〈友の会報発行〉

- ・ 第27号 4. 1 500部 B 5 6 頁
- ・ 第28号 7. 1 500部 B 5 6 頁
- ・ 第29号 10. 1 500部 B 5 6 頁
- ・ 第30号 1. 1 600部 B 5 6 頁

〈資料等の作成頒布〉

- ・ 特別展図録「木の文化」 600部
- 「哺乳動物」 600部
- 「鹿児島」 900部

- ・ 「展示案内ここをじっくり」等の頒布
- ・ 「織田信長」ほか委託図書等

〈その他〉

- ・ 親子教室等共催事業 10回
- ・ 会員助成（入館料補助）
- ・ 県博物館へ図書寄贈

●平成3年度友の会役員

会 長 熊田 光久

副会長 長屋 一男 国光 溢夫

廣田 照夫 篠田 幸男

●平成3年度予算

一般会計 2,082,821円

特別会計 3,169,390円

IV 利 用 案 内

- ・開館時間 4月1日▶10月31日 9時▶16時30分
11月1日▶3月31日 9時30分▶16時30分
(入館は16時まで)

- ・入館料 () は特別展開催中の入館料

区 分	個 人	団体(20人以上)
一 般	210円(420円)	150円(300円)
高校・大学生	100円(200円)	50円(100円)
小・中学生	50円(100円)	30円(60円)

※団体で利用していただく場合には、下見においでください。
解説資料・利用案内等をさしあげ、館内を御案内します。

- ・休 館 日 月曜日(月曜日が祝日にあたる時は翌日)
年末年始(12月27日▶翌年1月4日)
- ・駐 車 場 博物館には駐車場がありませんので、百年公園の駐車場を御利用ください。
駐車料金……普通(軽)自動車 300円、バス 800円
- ・交 通 名鉄美濃町線 小屋名下車 徒歩約15分
岐阜バス 小屋名下車 徒歩約15分
自家用車のご利用の場合は百年公園北口からお入りください。

